

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201119		
法人名	社会福祉法人高陽会		
事業所名	グループホーム風の里	【ユニット名:西の家】	
所在地	和歌山県紀の川市粉河951-1		
自己評価作成日	平成22年9月28日	評価結果市町村受理日	平成22年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071201119&amp;SCD=320">http://www.kaikokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071201119&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風の里は幹線道路に面した立地にあり、近隣には、学校、消防署、神社、スーパー等生活の拠点がたくさんあります。ホームは地域の方との交流の場を作るよう努め、地域の方々の協力を頂きながら様々な地域の催しへ参加しています。  
ホームを拠点に利用者の方と一緒に出かけをモットーに地域生活との「縁」を繋げる生活を大切にしています。「食生活」は買い物から調理まで職員、利用者で一緒に日々行っています。安心と安全に配慮しながら一人一人の利用者の方が状態、状況に応じて日常生活での役割を持てるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道に面した総合福祉センターの敷地の奥の一角にグループホームがあり、和の趣の「西の家」と、洋の趣の「東の家」のユニットがある。ホームでは入居者の個性を生かし、職員と入居者が一緒にゆったりとしたペースで過ごすことのできるサービスを提供している。とくに毎日の食事を大切に考え、入居者と共に関わり調理から片付けまで行ない、個々の力を発揮できるよう支援している。また地域のなかでの人のつながりを大切にして、運営推進会議で出された意見が反映できるように取り組んでいる。法人主催の夏祭りには地域住民に参加の呼びかけを行い、また地域にも積極的に出かけて、入居者が地域とつながりを持って過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の生き方を尊重した生活の支援することを理念とし、それを実施できるように事務所に掲げています。定期的に申し送り、ミーティング時に共有し日々の実践に向け取り組んでいます。	入居者一人一人の気持ちに応じたケアと、地域のつながりを大切に「ゆっくり 楽しく いっしょに 自分らしく暮らす」を目指した理念を作っている。理念は事務所に掲げられ、ミーティング時に共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の勉強会、民生委員の一日体験(ボランティア)利用者と地元の人々と交流(天福荘へのつどい)地域の行事(文化祭等)に参加して交流を深めています	老人会の会員に、認知症や介護についての学習の場と入居者との交流の機会を提供している。地区の文化祭に作品を出展し、皆で出向き、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサービスの開催や、民生委員、老人会の勉強会、ボランティア等の受け入れを積極的に行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告、意見交換、情報収集を行いホーム運営に生かしている。地域の行事には積極的に参加している。	家族代表・地区代表・民生委員・市の高齢介護課・包括支援センターの参加で、二ヶ月に1度開催しており、今後のサービスに活かせる具体的な内容が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡等で済ませることなく面談し報告、連絡するよう心掛けている	市町村担当者にはグループホームの実情をしっかりと分かってもらうため、積極的に報告・相談をしている。他の事業所の事例等も教えてもらい、それらを参考にし、日々のケアに取り組めるよう、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施や日々のミーティングの中で学び身体拘束しないケアの実践を行っています。	内部研修を行ない身体拘束の内容と弊害が認識できている。入居者の根本的な不安が解消され、行動が安定できるよう支援しており、日中は玄関の鍵も必要としない。言葉による拘束にも気を付け、日頃から気付いた点を注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の機会を設け、職員の認識を高めています		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：西の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については外部の研修で学ぶ機会を設け、利用者や家族によっては必要な人がいればこういった制度の説明を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は、利用者や家族等、理解・納得して頂く為に十分な説明をおこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とのコミュニケーションの中で苦情・要望などあった場合、報告書やカルテに記入しミーティングなどで話し合い運営に反映させている	家族の訪問時に日頃の様子を伝えて家族の要望を聞いている。事業所独自の家族アンケートを年一回実施しているが、改善などの要望は出て来ない。	家族の言い出しにくい部分を聞き取るのは難しい事であるが、家族アンケートの内容を答えやすく検討し、無記名方式にする等工夫して、更なる取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時の話し合いの場で個人の意見を出してもらっている。また、様々な企画の立案は職員に任せ運営者、管理者は安全面の確認を中心に行っている。	毎日のミーティングの中で、職員から自由に意見が出されている。職員の意見が反映できるよう努めており、休憩時間の取り方についても話し合いがなされて、休憩所も新たに設けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価で職員の意識、向上心の把握をすることで就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の基礎研修、内部研修（年6回）、外部研修は研修内容や経験に応じて積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や研修生の受け入れ、他事業所との勉強会に参加しています		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：西の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の聞き取りの中で、アセスメント・カンファレンスを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の聞き取りの中で、アセスメント・カンファレンスを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他職種との連携を図りその時利用者が必要としているサービスの提供に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志を尊重した生活を築く援助を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じ利用者には家族の話を、家族には訪問時や便りを通じて様子を伝えるよう努め利用者と家族の良い関係が継続するように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所まで親しくしていた方の訪問を家族に勧めたり、会話によく出る近隣の場所にでかけるよう配慮している。	今までの関係が途切れないよう配慮しており、馴染みの人が訪問してくれたり電話を掛けてきてくれる。入居後も地域のお地藏さんに出かける日課や、行きつけの理美容院の定期利用を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を理解したうえで外出の組み合わせ、食事の時の配置などを決めて精神の安定が図れるように仲間作りや活動の場面を支援している		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：西の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等の時は定期的に訪問や家族との連絡を取っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回時のアセスメントやミーティングで問題点や希望を把握し、その人らしい生活が出来るように検討している	行動に表れた本人の意向を見逃さないよう努めている。ケアの改善点をミーティングで話し合いノートに記している。声掛けに工夫しながら、関わりの中で意向が把握出来るよう取り組んでいる。	なにげない日常会話やつづやきの中からも本人の思いや意向を汲み取り、センター方式等アセスメントツールを工夫して更なる情報の共有につなげて行くことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、利用者・家族・他職種とのコミュニケーションの中でその人の生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやミーティング・カンファレンス等、把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時のアセスメントや、家族や必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映出来る様にしている	その人らしく生活できるよう家族・本人の希望を聞き職員間で話し合い、介護計画を作成している。状態に変化がなければ、六ヶ月に一度見直し、変化があれば状況に応じて作成し直している。	更に本人、家族の思いや意向を盛り込める方法を工夫し、状態の変化だけに捉われず、一人ひとりの意欲や自信をより引き出すことができる介護計画の作成に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ記入した物をミーティングで情報を共有し介護計画見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の利点を生かしご家族の希望に添えるような柔軟な対応をしている。		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：西の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域包括との連携を取る様になっています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ受診援助している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医は自由に選べるが、ほとんどが協力医療機関の希望となっている。受診時は同行し医師に日常の様子を伝え、受診後は家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に状態を相談し、同じ法人の看護師にアドバイス等をしてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に訪問し担当医と情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から状態の変化等があった場合、家族の将来の意向を話し合っている	重度化した場合は、老健・特養への入所とする事業所の方針を契約時に伝えている。今迄のケースでは早めの話し合いを持ち、他の施設に入所できるようにしている。入居者の状況や家族の希望を受けて事業所としての今後の対応を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や緊急対応マニュアルによって徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、防災マニュアルを基に職員間で周知している。消防訓練も実施している。運営推進会議に於いて、地域の代表の方々に協力もお願いしている。	消防訓練は入居者・家族・地域住民も参加し、実際に消火器も使用して、年2回行われている。スプリンクラー、自動火災通報装置も設置され、市の災害時地区避難場所にもなっている。食糧・生活用品の備蓄もある。	

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：西の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待防止や個人情報に関する勉強会を行っている	内部研修で、プライバシーや個人情報保護について学習を重ねている。職員同志注意しながら、年長者として敬意を払い、一人一人の尊厳を傷つけないよう、言葉かけに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り選択できるような方法を心がけ援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースではなく利用者の能力に応じた対応をし利用者の希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の考えに応じ、馴染みの美容室を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については買出し、下ごしらえ、盛り付け、後かたづけ、と様々な場面で利用者の能力に応じ支援している。「食」の提供方法を多様に考えている。	一週間分の献立を考え、毎日の買い物から下ごしらえ、盛りつけ、下膳や片付けまで、各入居者ができる事をしている。毎日の料理も旬の食材を取り入れ季節感漂う工夫がされ、食事を楽しむ支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別に食事摂取量と水分管理のチェック表を用いて、日々の観察をしています。また月初には体重測定も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	援助の必要な方には、適切な声かけと援助を行っています。		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：西の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ミーティングで話し合い利用者の能力に応じた支援をしている。	排泄パターンを把握し時間を決めた声掛けや、ミーティングでの情報交換などで、ほとんどの入居者が排泄の自立ができている。本人には、ズボンの上げ下げなど自分で出来る事をしてもらい自信につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で個別に観察しています。必要な方には乳性品の摂取等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日や時間、間隔を決めずに楽しんで頂いてる。	午前・午後・寝る前など、入居者に、入浴日や時間を決めてもらい、自由に入浴出来るよう支援している。困難な場合も声かけを工夫し、希望に応じて必要な場合は同性介助としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備を行ったり、利用者の方の生活のリズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書を個人カルテに表示し作用、副作用の確認をしている。薬は分かりやすく管理し、服薬チェック表に記入し管理している。また症状の変化の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴や一日の過ごし方の状況を生かし定期的な企画（外食、映画の日、散歩、ドライブ）や季節ごとの企画を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の食材の買い物、散歩、嗜好品の買い物は頻繁におこなっている。また外食等の企画は月一回は最低行っている。	毎日の食材の買い物、近くの運動場やバスターミナルまでの散歩、時には、根来寺・粉河寺にも詣でたり、岩出市のショッピングモールで買い物と、積極的に外出している。月に一度の外食も、入居者の楽しみとなっている。	



【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：西の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方には所持して頂き、外食や買い物時に使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望の場合はかけに行き手紙の場合は返信できる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じた照明の点灯パターンをつくっている。また季節感を感じられる生け花や掲示物をリビングや玄関ホールに用意している。	土間のある和の趣の西の家と、モダンな洋風の東の家の玄関には、季節の花が活けられ坪庭の懐かしい道具も家庭的なほっとした空間を作っている。居間で編物する人、カルタ取りをする人など、入居者が思い思いに過ごしやすい共有空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方には居室、ダイニング、リビング、玄関ホールで気の合う方、家族との面談、又は一人で過ごしていただいている。また晴れた日には、中庭のベランダにテーブルを用意しているのでそこでも過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で今までの使い慣れた馴染みのある家具類等持ってきて頂けるよう説明している。	各部屋の入り口には表札代わりに入居者が家から持ってきた小物を工夫している。明るく落ち着いた居室は、使い慣れたものを持ち込み、自分らしい部屋になるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には利用者の方の目印になるものを表札がわりに出している。またトイレには表示と照明の工夫をしている。		